

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
生物物理学分科会（第24期・第2回）
および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
IUPAB分科会（第24期・第2回）

議 事 要 旨

- 1 日 時 平成30年8月31日（金）10:30～12:00
- 2 場 所 日本学術会議5階 5-C（1）
- 3 出席者 上田昌宏、上村想太郎、老木成稔、岡田真里子、佐甲靖志、笹井理生、七田芳則、曾我部正博、諏訪牧子、寺北明久、徳永万喜洋、豊島陽子、中村春木、難波啓一、野地博行、原田慶恵、美宅成樹、山縣ゆり子（18名）
欠席者 宇高恵子、杉本亜砂子、片岡幹雄、神取秀樹、嶋田一夫、永井健治、吉川研一

会議に先立ち、それぞれの分科会の出席者数が委員総数の2分の1以上を充たしており、両分科会が成立していることが確認された。

- 4 議題
 - （1） 前回議事要旨の確認
 - （2） IUPAB congress 2023の開催について
 - （3） 公開シンポジウムの開催について
 - （4） 次回分科会の開催予定について
 - （5） その他

5 議事要旨

(1) 前回要旨の議事確認 (資料1)

第24期生物物理学分科会の原田慶恵委員長から、前回(第1回)の議事録の内容に関してメール審議で確認済みであることが報告され、承認された。

(2) IUPAB congress 2023の開催について

IUPAB野地博行委員長から、2023年の開催に向け、10月のIUPAB congress 2020(ブラジル、フォス・ド・イグアス)におけるIUPAB congress 2023(京都)の紹介を行うこと、生物物理学会にワーキンググループを設置すること等、準備状況について説明があった。

IUPAB congress 2020のプログラム委員の中村春木委員から、日本からの講演者を充実させるために、講演者の推薦の依頼があった。

関連して、最近、国際的なネットワークにおける日本からの発信が少なくなっているのではとの懸念が出され議論した。ABA(Asian Biophysics Association) Symposium 2018(メルボルン)での日本からの講演者・参加者を増やすべく、生物物理学会と連繋して尽力してゆくことを確認した。

(3) 公開シンポジウムの開催について (資料2)

分科会後に開催される公開シンポジウム「新たな発見をもたらす科学における計測と予知・予測」(8月31日午後13:00~18:00、日本学術会議講堂)について、配布資料に基づき、コーディネーター(岡田眞里子委員、佐甲靖志委員、上田昌宏委員)の岡田眞里子委員から説明があった。本シンポジウムは、バイオインフォマティクス分科会など関連する分科会と連繋し、理化学研究所との共催、大阪大学蛋白質研究所の後援により、計測、予知・予測、情報に関し、神経科学、ゲノム科学、宇宙科学、地震学、統計数理学などの幅広い分野の研究者が集まり、より広い見地から今後の研究の方向性について議論する予定である。

(4) 次回分科会の開催予定について

年2回の開催予定で進めてゆくこととして、2019年2~3月頃に開催することとした。

(5) その他

- ・学術会議の次期「学術大型研究計画マスタープラン」の公募が10月に始まる予定である。第23期生物物理学分科会では、「学術大型研究計

画マスタープラン2017」として「次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画」を提出し、重点課題として選定され、文部科学省の「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定ーロードマップ2017ー」のヒアリング対象への選定にまで進んだ。この経緯を受け、第24期においても「学術大型研究計画マスタープラン」に提案する方向で、ワーキンググループを作成して準備することにした。

- 「提言」は、社会への発信としての重要課題として每期行っており、第24期も提言を出す方向を確認した。「学術大型研究計画マスタープラン」提案と同じワーキンググループで準備することにした。
- 男女共同参画学協会連絡会に関して、最近協議会の正会員からオブザーバーに変更する学会が出てきている。この背景や、社会的な状況変化などについての意見交換を行い、男女共同参画の推進に関して議論した。